



実りの秋、あなたは何を実らせる？

44日間の夏休みも終わり、昨日から前期後半がスタートしました。まだまだ残暑厳しい毎日が続いていますが、暦の上ではもう「秋」です。ライフタウンの至る所にゆく夏を惜しむかのようにピンク色の百日紅の花が咲いています。秋と言えば「読書の秋」「芸術の秋」「食欲の秋」等、いろいろな言葉で表現されますが、暑かった夏に対して、じっくり腰をすえて何かに取り組むには最適の季節です。引地川沿いの田んぼの稲穂も実り、黄金色に輝いている景色を見ることができます。子どもたちにもこの稲穂のように、この秋に自分の夢や目標につながる何かをじっくりと実らせてくれたらと思っています。

「小さな変化を見逃さずに」～保護者の皆様へ～

夏休み明けの登校は多くの生徒にとっても心理的負担となりますが、友人との関係や学習等に悩んでいる子どもたちには、なおさら大きなプレッシャーとなります。学校としても再開に向けて、細心の注意を払いながら子どもたちを見守っていきたいと考えております。ご家庭でも特にこの時期は子どもたちのイライラや落ち着きのなさといった小さな変化も見逃さないよう、日常的な会話等を増やしていただければと思います。しかし、悩んでいる子どもたちの中には周りの大人に心配をかけないよう、明確なSOSを発しない場合もあります。故に周囲の大人が普段から自身の『弱み』を明かしていると、子どもは相談しやすくなると言われております。その上で異変を感じたら、否定せずによく話を聴いていただき、必要に応じて学校等にご相談していただければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

多くの人に感動を与えてくれたパリオリンピック

8月11日夜（日本時間12日未明）、17日間の日程で行われたパリオリンピックが閉幕しました。3年前の「無観客開催」の東京大会とは異なり、明るく祝祭感のある素晴らしい大会だったのではないのでしょうか。改めて「平和」であること、「健康」であることが重要だと感じました。日本の選手も夢をつかもうと、最後まで力を尽くし、躍動する姿を見せました。連覇やメダル獲得など、実力を十分に出し切って期待通りの結果を出した選手、逆に期待がプレッシャーとなり、思うような結果が出せなかった選手、そして、それほど前評判は高くなかったにも関わらず、期待以上に活躍をした選手など、結果はさまざまでした。結果はどうであれ、その笑顔と涙は多くの人々の記憶に刻まれたはずで、だからこそ、私はオリンピックに参加した選手全員に心から拍手を送り、「お疲れ様でした。」と声をかけたいと思います。しかしながら、一部報道によると、負けた結果やその後の態度などについて、多くの人が好き勝手に語っているようです。一番悔しいのは、言うまでもなく本人で、どのくらいオリンピックに向けて準備を重ねてきたのかは本人しかわからないことです。今回の大会でも選手や審判等へのSNSなどによる誹謗中傷が問題となりました。以前であれば、テレビの前でのつぶやきや愚痴で終わっていたものが、現在ではSNSを通して世界中に発信されてしまいます。気持ちは理解できますが、私たちは改めてSNSによって及ぼされる影響を十分に意識して行動すべきではないのでしょうか。そして、子どもたちに対しても、匿名性を悪用して無責任に“言いたいことを言う”人にはなって欲しくないと感じます。



私もこの大会を通して多くの感動をいただきましたが、一番印象に残っているシーンは卓球の早田ひな選手がシングルスで銅メダルを決めた試合直後の場面です。早田選手がその場に座り込んでしまい、涙を流していると、負けた韓国選手が早田選手の方に歩み寄りハグで祝福し、笑顔で言葉を交わしていました。敗戦直後に勝利した選手の気持ちに寄り添える韓国選手の思いやり、優しさ

は大変素晴らしいと感じました。その姿を見て、ちょうど1年前の甲子園決勝で破れた仙台育英の監督・選手たちを思い出しました。相手の優勝インタビュー中、監督・選手全員がベンチ前に出て相手の声を聞き、拍手をしていた姿です。日頃からその監督は「負けた時に人間の価値が出るからグッドルーザーであれ」と選手に伝えていたそうです。グッドルーザーとは潔く負けを認め、相手の勝利に敬意を払い、試合に関わる人たちに感謝できる人のことを言います。試合に勝てば、自分の努力が報われて誇らしく、誰からも祝福を受けるでしょう。しかし、負けてしまった時こそ、どんな振る舞いをするのか、負けを潔く受け入れられるのかが問われます。正にこの韓国選手もグッドルーザーと言えるでしょう。実はこの「負ける経験」こそが、子どもたちの課題発見力やレジリエンス（困難をしなやかに乗り越え回復する力）を養う大きな成長の機会となると言われています。本校の生徒にも部活動や行事等を通してこのような経験をしてもらえたらと願っています。

「備えあれば憂いなし」～南海トラフ地震臨時情報を受けて～

8月8日、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震の発生に伴って、同日、気象庁は南海トラフ地震の想定震源域では巨大地震が発生する可能性が平常時より高まったとして、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。幸い、1週間で巨大地震につながる異常は観測されませんでした。大切なのは今回の経験を次の備えに生かすことです。藤沢市では大規模地震（震度5以上）が発生した場合には、直ちに活動を打ち切り、原則として保護者が引き取りに来るまで学校で生徒を預かる（留め置く）ことになっております。災害はいつ起こるかわかりません。学校でも登下校中や休み時間に起こる可能性もあります。今後も効果的な対応ができるように防災訓練等で改善を図ってまいります。ご家庭でも災害が起きたときの約束事などを決めていただければと思います。



また、災害という点では、この時期は台風等による風水害も心配です。対応については、当日の気象情報等に基づき、4月5日に配付いたしました文書「台風などによる悪天候時の臨時休校等の連絡について」「悪天候時における生徒下校の際の引き渡しについて」（お車でのお迎え等についても記載しております）に従って行いますので、今一度ご確認いただければ幸いです。

『けやきの会』に感謝いたします～標準服リユース～

過日、けやきの会のプリントでもお知らせしましたが、「標準服リユース」を8月22日（木）13時30分から15時に南棟1階25組教室で行いました。そのために「けやきの会」の本部役員やサポーターの方たちがご多用の中、当日はもちろん前日にも来校され、丁寧に準備・対応していただきました。当日は30名程度の来場者があり、ご購入いただきました。こうしたことができたのも、『けやきの会』本部役員の方たちをはじめ、標準服等をご提供いただいた卒業生の保護者の皆様のおかげとっております。この場を借りて、改めて心より感謝いたします。なお、売上金はすべて寄付金として扱われ、生徒の学校生活の充実のために役立てられます。



暑い夏、部活動においても“熱い”夏でした！

夏休み中も運動部の中には湘南地区大会、県大会と勝ち進み、活躍した選手が数多くいました。陸上競技部においては、福井県で行われた全国大会に出場し、活躍した選手もいました。また、運動部だけではなく、文化部もさまざまなコンクール等に参加して素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。結果は次のとおりです。

- 野球部：関東少年大会県予選ベスト8 ○ソフトボール部：藤沢市研修大会 3位
- ソフトテニス部：男子団体 湘南地区大会初戦惜敗 女子団体 湘南地区大会初戦惜敗
- バスケ部：男子 湘南地区大会ベスト16 女子 湘南地区大会ベスト8
- 剣道部：湘南地区大会 女子団体準優勝 県大会 女子団体ベスト16
- バレーボール部：湘南地区大会 男子ベスト8 女子ベスト16
- 卓球部：湘南地区大会 男子団体 2回戦惜敗
- バドミントン部：湘南地区大会 男子団体 8位
- 陸上部：全国大会 男子400m出場
市内陸上 共通男子400m 1位 共通男子800m 2位 共通男子砲丸投げ 3位
- 吹奏楽部 湘南吹奏楽コンクール 銀賞
- 合唱部 TBS こども音楽コンクール 優秀賞 NHK全国学校音楽コンクール県予選 奨励賞

